



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
 編集 早川清志
 題字 島崎洋路

『まず身近な数十種から』

『通年コース第三・四回開催報告』 『施業診断・樹木分類』

「家の近くの林にあるあの大きな木は何という名の木なのだろう、もう十年も二十年も見ているけれど、名前がわからない。」葉っぱを持って聞きにきた方がいました。「五月の連休頃穂状に小花が

密生して咲きませんか？木肌はサクラのようではありませんか？」との質問に「そう言われてみればそうかもいけない」とのこと、やはりウワミズサクラに間違いないと確信しました。木や葉



檜小屋手前の丸太橋が新しくなっていた。感謝

を見るとサクラのようですが花はサクラに似つかない、けれどサクラ

の仲間です。つぼみの塩漬けはお茶請けなどで食用になるらしいし、さくらんぼを果実酒にすれば、春先の気分を満喫できる、ぷんぷんとサクラの香りのする果実酒になる事をお教えしました。

通勤途中に見えるあの大きな木はなんだろう、あの家の庭にあるきれいな花の咲く木はなんと名前だろう、こんな事がすぐにわかればどんなに楽しい事でしょう。詳しい人が近くにいれば聞けるのですが、いつもそうできるとは限らない。やはり自分で調べてみる、検索してみる、そして正しい名前に辿り着くようにしたいものです。

二十四日の樹木分類ではその辺りのところの入門編を勉強してもらいました。樹形は幹立ち？葉は常緑、それとも落葉？複葉か単葉か？鋸歯はある？どんな鋸歯？葉脈は？そういった検索のキーに従っていくつかの樹種を調べてもらいました。図鑑によって

キーの並べ方はいろいろです。自分の使い易い図鑑を見つけるのも上達の近道かも知れませんが、

そして午後は楽しみにしていた信州大学西駒演習林の散策。案内は元演習林長の島崎先生。桂木場の登山口から小黒川を渡り、標高千五百メートル近いブナ帯の入り口まで登りました。昨日のような雷雨にも見舞われず、天気は上々、これぞ信州の春というような気分の良い一日でした。

通年コース 第三回

5月23日(金)

施業診断等

8時30分 島崎先生の山小屋に集合。先生方のあいさつと日程説明



葉は卵形でもカエデの仲間です、ヒトツバカエデ

8時50分 現況調査のデータをもとに込み具合を判定する説明

10時20分 二班に分かれて林分形状比や相対幹距比を計算し、込み具合を確認した後、施業方針を決める。大河内さんの一班は、強めの間伐をした後、間を流れている溪を生かしてわさびなどを育てたい、と夢いっぱい。また二班は発表者が茂籠さんで、こちらは理詰め。十年後に相対幹距比が十七パーセントになるように、本数で四分の一強の間伐を施したいとのこと。

このあたり、七月の間伐の回に詳しく説明させていただきます。将来のある時点の林相を想定して施業方針を立てる、という考え方は島崎先生

11時30分 林木評価の算式説明。丸太の市場価格から伐出、運材等の必要経費等を差し引いたものが山の立木の評価額とするのが一般的です。現在、これがマイナスとなるものも少なくないとのこと

12時20分 昼食

1時20分 歩いて近くの平地林へ。島崎山林研修所で切り出した丸太で材積計算の復習。未口自乗法、忘れないでね。

おまけはイントラ川島によるぶり縄デモ。集中コースで少しかじった方もいますよね。秋の枝打ちの時にやりますのでお楽しみに。川島さんが二段登ったところでポツポ



何か美味しそうなものミッケ!!

ツ来はじめ、すぐに雷雨の本降り。小屋まで逃げ帰りましたが、相当濡れてしまいました

第四回 5月24日(土) 樹木分類

8時30分 鳥崎先生の小屋に集合。樹木分類とはどういうことか、なぜ名前を覚えなければならぬのか、ということについての話



ほー、へー、ふーむ、うーん

かつたらひとつづつ戻ってやり直しです。検索のキーをまず覚える事がポイント

12時 堰堤下で昼食

12時40分 堰堤を越え、小黒川を渡り、信州大学西駒演習林檜小屋へ。ウドやニリンソウ、コウモリソウ、ウワバミソウ、モミジガサ、イケマなど山菜が処々にあるが、どうやら昨日はこのあたりに薔(ヒヨウ)が降ったらしい。葉っぱが折れたり穴があいたり状態



樹木の名前に関しては鳥崎山林研修所のなかでは並ぶものなし

3時 小屋西側の若い広葉樹の林でサクラ類などの検索の復習。ここは元アカマツ林だったが、下生えにサクラ類を中心に四十種以上の広葉樹が自生していたため、これらを生かした天然生のサクラ園に誘導するよう、鳥崎山林研修所で、手入れを

4時 天気も上々、楽しい一日でした。解散

参加者/阿部さん、井伊さん、大河内さん、小栗さん、小野さん、椎名さん、重松さん、園田さん、滝



市場に出せない曲がり丸太、細丸太もストーブ薪として利用される

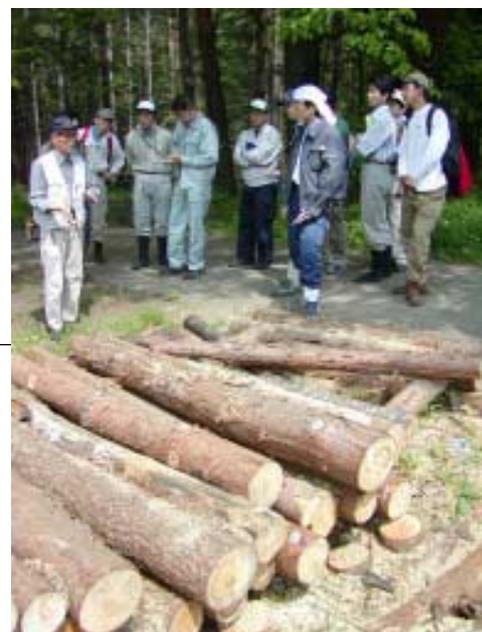
次回以降の予定

第五回 6月20日(金) 伐木造材

立っている木を切り倒し、枝葉を払って丸太にすることです。

今山の手入れをするのにチェーンソーは無くしてはならない道具です。まずこの使い方覚え、扱いに慣れましょう。便利ですが侮れない道具でもあります。手入れも怠れません。一通りの手入れもしてみます。そして立木の伐

口さん、武田さん、永井さん、西村さん、日比野さん、茂籠さん、矢島さん、長谷川さん、宮沢さん、風見さん、長坂さん 講師/保科先生、鳥崎先生 スタッフ/川島、後藤、平林、坂野、早川



丸太材積の復習。皮なし最小径の末口自乗

専門コース第二回開催

7月3日(木) 5日(土)

長谷村鹿嶺高原を予定しています。前回は平地林で、それほど大きな木ではなかったの、少し難易度の高い現場に挑戦してみましよう。村営の簡易宿泊施設を借りて三日間の合宿です。炊事当番は交代でよろしいですか？

第七・八回

7月18・19日(金・土) 間伐

いよいよ森林塾も佳境に入ってきます。間伐の理論と実際を、身につけてください。

小さい時ほどこまめに面倒を見てあげなくてはなりません。特にヒノキは大器晩成型、スギ、カラマツなどに比べ手を要します。周りの雑草、灌木を刈り、日当たり、風通しをよくします。下枝をいれないように。西春近の植林現場を予定しています。できれば来年度の地こしらえも少しやっていただこうかと思っております。担当は保科先生。8時30分鳥崎先生の小屋集合

18日は鳥崎先生、19日は保科先生の担当。



リレー通信

山への関わり方 大河内 信行



私が山に関心を持ち始めてから、まだ半年余り。山についてはまだ何も判らず、日々少しずつですが山のことについて勉強しているところだ。一方、私の周りにみえる方々は、かなり前から緑や山に関わっている人達ばかりで、いつもいろいろ教えてもらっています。

私は現在、三重のあるグリーンボランティア団体に所属しています。入会したのは、約半年前きつかけは、ある時急に山に入って仕事をしたところ、今のボランティア

ア団体を紹介されました。山の仕事が出来ないと思つたのは、「今、山は人手不足。そのため山に必要な間伐が行われていない。」という話を聞いたのがきっかけ。以前より第一次産業は、後継者不足に悩んでいるという話は聞いたことはありましたが、人手不足により必要な作業が行われていないと聞いて、それだつたら私の体力がその一助になればと思ひ、山に関わってみようという気持ちになりました。

ところが、実際は人手不足というの、単に人手が足りないというのが問題では無く、採算性や労災補償の問題等、様々な要素が起因していることが、次第に判つてきました。そこで、「だつたら、自分なりの解決策を見出し、それを実践していこう」と、なんと大それたことを考える様になり、今日に至っています。(まだ何の成果も有りませんが・・・)

最近少し思うことの一つは、ボランティアの場での話ですが、人工林での土壌流出防止のためには、間伐を行い、下草を生やすことが必要。という事について。もちろん、それは正論であり異論もありませんが、そればかりに固執しすぎて、山全体のことが

見れていないんじゃないかと思ふ時があります。私は、元々山は火山の噴火や地殻変動による隆起によつて出来たものであり、雨が降れば流水により少しずつ土が流れるのは自然と思つています。当然、自然林と人工林との出来あがつたベースは違つるので、同じ条件で考えるのはおかしいです。土壌流出の度合いも全く違つとは思ひますが、山を考えるに当たつてそういった発想も必要では無いかと思ひます。この山の土壌流出を無くすには、これだけの間伐をしなければならぬ、では無く、土壌流出を少しでも遅らせるには、まずはこことそことの間伐から始めよう、といった発想の方が少し気が楽になり冷静に物事が見られる様な気がします。あまり上手く伝わらないかもしれませんが、時には一歩引いて、物事を見つめる、そういった違つた発想が大事ではないかと思ひます。

また、山に関わり始めてごく僅かで、山のこと、林業のことは余り判りませんが、そういった発想も時にはしながら、少しずつ勉強して山に関わつていきたいと思つています。

あまり山での経験が無く多く語れませんので、通信への寄稿はこの辺にさせて頂いて、代わりにこれまでの森林

塾受講の感想を述べたいと思ひます。

第一回(測樹)

・4mの釣り竿を使つての調査は、非常に簡単だつた。ただ、下枝が多かつたり、非常に混んでいる林内では、調査がしづらいのでは無いかと思つた。

・ワイゼを使つての樹高測定は、簡単だつたが多少コツがあると感じた。今まで樹高測

リレー通信

自己紹介 阿部 紀人仁

森林塾では初対面の方がほとんどですので、ここ二十年余りの自らの足跡を簡単にたどりつつ、自己紹介をさせていただきます。

もともとは大阪の出身なのですが、地元の高校を卒業すると東京に出て、府中市にある東京農工大学の農学部林学科に入学しました。確か四手井綱英という林学の先生が書いた本を読んで、当時はあまり耳慣れぬ言葉だつた「森林生態学」なるものに憧れを抱いたことが直接のきっかけ

定というつ、伐倒しての測定しかしたことが無かつたので、結構感動した。

第二回(植林)

・保科先生の説明は、良い勉強になった。木を植えるのも、いろいろあるということが良く判つた。

・何しろしんどかつた。自分では多分四十本程は植林出来たと思うが、プロなら二百本と聞いて、やはりプロはすごいと思つた。

の食害防止のためにヒノキの苗木にネットをかけて廻るボランティア活動に参加したこともあります。作業の内容などは忘れてしまいましたが、夜の宴会の盛り上がりはよく覚えています。特に当時の信大の面々の酒量と春歌のレパートリーの豊かさには、いたく感心したものです。

だつたように思ひます。一方で、なんでわざわざ森林と縁の薄そうな都会の学校を選んだかと言つと、やはり一度は東京で暮らしてみたいという若者ならではの好奇心があつたからでしょう。いづれにしても、古い話なのであまり記憶の定かならぬところです。

ところが実際に入つてみると、最初から県や林野庁の公務員になるのが大前提であるような学科の雰囲気とカリキュラムに馴染めず、早々に落ちこぼれてしまいました。しかしそんな中でも、万年助手というアウトサイダー的な立場で野生動物の保護と新しい林業のあり方を探求している先生が居て、よく丹沢(神奈川県)のフィールドに連れて行つてもらいました。そこで知り合つた先輩の縁で、この伊那谷で信大や京大の林学科の学生と一緒に、カモシカ

そんな楽しい思い出も少なからずあつたのですが、本業の大学の授業にはまったく興味を持てず、結局は一年半で中退しました。今にして思うと、樹木学実習や造林実習など、これからKOA森林塾で学ぼうとしている実技の時間もたつぷりあつたのですから、少々惜しいことをしました。その後いろいろな紆余曲折を経て文科系の大学に入り直し、今度はおとなしく四年で卒業して石油会社に就職しました。北京・香港での駐在員生活を含めて主として海外部門で勤務した後、入社九年度で退社。石油資源を大量かつ安価に輸入販売することが使命ともいえる仕事への疑問が限界点に達していたのです。ちょうど京都でCOP3(地球温暖化防止会議)が開催された年のことでした。

会社を離れてからの半年間は、北は大雪山から南は屋久島の宮之浦岳まで、思う存分に一人で山歩きを楽しみました。林業の道に進むのは早々



に挫折したものの、農工大時代に味わった山歩きの魅力は、飽きっぽい私をも捉えて離さなかったのです。念願だった国内の山々を一通り巡った後、原生林の保護活動をしてきた知人の誘いでオーストラリアのタスマニア島と南米エクアドルにも足を運びました。そこでは直接・間接に日本の経済活動に起因する森林破壊の現状を目の当たりにして考え込まれると同時に、再生可能エネルギーやパーマカルチャー（持続可能な農法などと訳されています）、エコツーリズムなどを導入して自然と調和したライフスタイルを再生させようと努力している人々に出会い、とても感銘を受けました。残された後半生、自分もこういう形で仕事と生活を両立させて、自然により近いところで生きて行こう、そう本気で考えるようになったのです。

そして帰国後、ちょうどOP3のセミナーでお話を伺った縁で、埼玉県の小川町に越したばかりのレクスタ（自然エネルギー事業協同組合）の専務理事（当時）、桜井薫さんを訪ねました。そこで意気投合し、そのままこの町に住み着いてしまったのです。

以来、早いもので丸五年になります。その間、レクスタや地元NGOの小川町自然エネルギー研究会（現・NPO法人ふうど）の事務局を手伝いながら、有機農業のまね事、インドネシアや東チモールでの小型太陽光発電の設置・普及活動など、とても楽しく勉強になる体験をさせて頂きました。同じような思いをもつ多くの先達や仲間と巡り合えたのが何よりの収穫です。

そして二年前、そうした仲間の一の呼びかけに応じた、森のエネルギー研究所という会社（実態はNPOに近いところもありますが）の設立に参画し、それにもなつてレクスタやNGOの事務局の方は若手にパトントッチしました。さまざま再生可能（自然）エネルギーの中でも、森や山にもっとも関わり深い木質エネルギー分野への思い入れが強かったからで、実に二十年振りに、ぐるりと回って林業と縁の深い世界に戻ってきたというわけです。その会社の仕事として、昨年は上伊那森林組合さんの木質ベレット事業化可能性

調査を担当させていただきました。半年以上にわたる現地調査の過程で、伐採や製材の現場を訪れ、また林業・林産業の第一線で活躍する多くの方々にお会いする機会に恵まれました。KOA森林塾の早川さんとお会いしたのも、その折です。仕事でこうした貴重な体験をすることができたわけですから、とても幸運だったと思います。

ところで、日本の林業・林産業の惨状は皆さんご存知の通りですが、木質エネルギー利用を通じてこれを立て直そうと考えるのは、非常に無理のある発想だと思えます。木に例えると幹や根の部分に相当する林業・林産業が非常に弱っているのに、木質エネルギー利用という枝葉の部分をいじくって木そのものを蘇らせようとするようなものです。木質エネルギー利用の先進国と呼ばれるスウェーデンやオーストリアを訪ねて実感したことは、やはり健全な林業・林産業なくして木質エネルギー利用の本格的な普及はありえない、という当たり前の事実でした。ところが世間のムードや目先の補助金などに流されて動いていると、いつの間にか本末を転倒して考えたり、行動したりするもののようにです。いわゆる木を見て森を見ず、という状態でしょうか。これは何よりも私

自身への自戒でもありません。ただし、誤解のないように付け加えると、決して木質エネルギー利用が無力とか無意味だとか言いたいわけではありません。私の言わんとするところは、日本で木質エネルギーの普及を本気で実現したのであれば、「本」である森林や林業・林産業の現状、その問題点と可能性をもっともつと現場の実態に則して経験・理解することが不可欠だという点です。まず林業・林産業そのものを再生させる具体的な政策や方法をしっかりと理解した上で、次にそれと相互補完するような形で木質エネルギー利用の仕組みを考え、構築するのが順序だということなんです。「本」の部分に手をつけなくて流行の「末」の部分だけ追っついては、事業としても、地域づくりとしても、決して成功しないでしょう。

また私自身は、日本のみならず世界各地の森林破壊のベクトルを何とか変えて、実り豊かな森林を守り育てる活動に積極的に参画したいという思いも強く抱いています。ただ、自然・経済条件に恵まれた日本の森林・林業の課題にすら対応できていない者が、遙かに複雑で困難な世界の森林問題に取り組むなどとも力の及ぶところではない、というのも正直な感想です。

たがって今は、世界の森林問題へのコミットはできる範囲で続けながらも、やはり活動や仕事の重点は木質エネルギーを切り口として、日本の森林・林業再生の取り組みに置きたいと考えています。

私が今回、KOA森林塾に是非とも参加させていただきたいと考えた背景には、以上のような思いがあります。これをきっかけとして、もっと深く、経験を通じて、日本の森林や林業・林産業の現状と可能性を自分なりに把握してゆく努力を始めたいと思いますので、どうぞよろしくご指導願います。

コラム

時まさに新緑の頃。一年を通じて山の景色が一番華やかな時期のような気がしました。広葉樹のやわらかな緑をバックに、ヤマツツジのさわやかな朱色とそれを引き立てるように咲くコバノガズミの白い清楚な花。それが終る頃になるとフジのうす紫の花にウツギの白い花とヤマブキの黄色い花。次から次といるいるな木々の花が咲き乱れ、まったくもって美しい季節です。

また、遠目で見ると淡い緑にくすんだ緑、黄色っぽい緑に赤っぽい緑と紅葉の時期に負けないくらい色鮮やかな山々の姿があります。

信州の山々の新緑でひときわ目につくのが、カラマツの存在です。秋の黄葉は有名ですが、春の新緑もなかなかのものです。緑というよりはグリーンと言う方がピッタリとくるのはつきりとした色調は、明らかに他の木々のそれとは違っています。

今年もそのグリーンの山肌を眺めながら、「よくもこんなにたくさん植えたものだよな。」と先人の苦勞を偲びつつ、「どーすんのかね」という思いを交錯させるのであります。

いく重にも 透ける緑がかさなりて 嘘子

おわりに

丸五年以上活躍した森林塾の携帯がお役目になりました。まだ十分使えたのですが時代の波に勝てずじまま消え去りました。で、新しい番号です。（左記）お手数ですが、登録されている方は変更をお願いします。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。
 TEL 0265-70-7065
 FAX 0265-70-7994



E-mail:
 ki-hayakawa@koanet.co.jp
 sh-sakano@koanet.co.jp
 mi-tsuboki@koanet.co.jp
 携帯:090-4463-0062 (開催日)
 H.P.http://www.koanet.co.jp